

メソセラピー

山下理絵 YAMASHITA Rie

湘南藤沢形成外科クリニックR総院長

1 はじめに

メソセラピーは、注射療法の医療テクニックであり、脂肪融解注射のことではない。

2019年、日本美容外科学会(JSAPS)後援のもと、整容目的のために行う、すべての局所注射療法を対象とした日本メソセラピー研究会が発足した。即効性を望むことはできないが、注入治療を行う場合、この手法は非常に利になる。類似する治療に水光注射がある。水光注射は、真皮の浅い層へ非架橋のヒアルロン酸、アミノ酸、抗酸化成分を配合した薬剤をメソガンと類似した機器を使用して注入する方法である。水光注射もメソセラピーの一部と考える。

2 メソセラピーとは

メソセラピーは、1952年にフランスのMichel Pistorによって初めて施行された注射を使用した医療テクニックであり、1958年に医学論文に報告された。1987年には、ボルドー大学をはじめとするフランスの大学に導入され、医学講座として認められ、さらに学位として授与されるようになった。当時は、リウマチ学、スポーツ医学、リハビリ医学において、おもに痛み治療として有効なテクニックであると認められていたが、最近では、美容医学にも応用されるようになった。これを、エスティックメソセラピーと呼び、局所の脂肪やセルライトの除去、加齢によるシワ、脱毛症などの治療方法の一つとして行

われているのが現状である。治療部位に必要な有効成分を含む注射液を少量ずつ直接注入する方法でフランスの開業医のあいだではよく行われている。日本では、医師の処方という内服薬であるが、フランスでは、医師は内服薬の処方箋を書くかわりに局所にメソセラピー施術を治療として行うこともある。使用する薬剤は、一般的な薬剤が用いられることが多い。一方、米国や南米では、多種の薬剤を混合して脂肪分解注射を行う治療をメソセラピーと呼び、一時期、日本では脂肪分解注射(フォスファチジルコリン)=メソセラピーと理解されていることが多かった。

3 メソセラピーの注射テクニック

メソセラピーの注射テクニックと注入部位(深さ)には以下の5種類がある。これらの方法を、治療目的、患者ごとに選択し、かつ組み合わせる行うことが重要である。

1. 表皮メソセラピー

皮膚と並行に約2mmの深さで注射する。【適応】皮膚表面の広範囲のセルライト除去など。

2. 丘疹の注射

真皮と表皮のジャンクションに注射する。【適応】シワなど。